

公共施設の更新

Q 市の借金を10%減らすと言っているが、公共施設への投資はどのように考えているのか。

A 厳しい予算の中で、効率的な使い方が必要と考えています。多くの公共施設の老朽化が進み、更新の時期がきています。学校の校舎や体育館の耐震化は済んでいますが、建物自体の建て替えが必要になっていきます。新築する場合には統廃合も視野に入れ、整備していくことが必要と考えています。

(公共施設の試算)

現在の市の公共施設(道路、橋、上下水道などのインフラを除く)を維持するには、今後50年間でおよそ千200億円が必要となります。



老朽化が進む公共施設(写真は昭和43年に建設された市民体育センター・競技場)

コミュニティバス

Q シャトルバスの実施に向けての進捗状況を聞きたい。

A 平成24年度中に市の公共交通のあり方を話し合う協議会を立ち上げ、平成25年度中に蒲郡市の公共交通のあるべき姿の計画を作りたいと考えています。コミュニティバスが必要となれば、平成26年度中に実証実験を行いたいと思います。

(その後の市の対応)

3月に蒲郡市地域公共交通会議を設立し、検討を開始しました。

名鉄電車の利用促進

Q 名鉄電車の利用については、公務員に利用するよう促してから、市民に呼びかけたらどうか。また、従業員の多い企業にお願いしてはどうか。

A 公務員が率先して協力しているのは当然だと考えています。定期券を購入して通勤している職員もいますし、他の職員も極力利用するようにしています。

また、これまでも市内の各企業を回って名鉄電車の利用をお願いし、現在6事業所にご協力をいた

だいております。「乗って残そう！

名鉄西尾・蒲郡線！」と考えていますので、市民の方にも年に1、2回は利用していただければと思います。



名鉄西尾・蒲郡線

高齢者住宅の貼り紙

Q 以前、ひとり暮らしの高齢者が元気なら「元気です」の貼り紙を玄関に掲げることが行われていたと思うが、現在も行われているのか。

A 平常時、玄関にそのような表示を掲げると悪徳業者に狙われる危険性があるため、現在は行っていない。そのような災害時要援護者の方には、本人の了解を得てリストを作り、災害時には地域で声かけをしていただくようにお願いしています。

メタンハイドレート

Q 渥美沖でメタンハイドレートの掘削が行われるようだが、その関係で蒲郡港に船舶が接岸しやすくなったかどうか。

A 渥美沖にメタンハイドレートという燃料資源が豊富に埋蔵されていることがわかりました。近いうちに渥美沖で海洋産出試験が始まり、蒲郡港は3月まで海洋産出試験の支援基地になります。

平成27年に蒲郡港のマイナス11m岸壁について計画の約半分が一部供用されるようになりますので、再度、渥美沖での海洋産出試験の際には支援基地の誘致などで蒲郡港を活用してもらえよう働きかけを行っていきます。

メタンハイドレートが実用化された際には蒲郡港が基地になり新たな産業の創出を生み、蒲郡の活性化につながることを期待しています。



海洋産出試験の支援基地として利用されている蒲郡港